

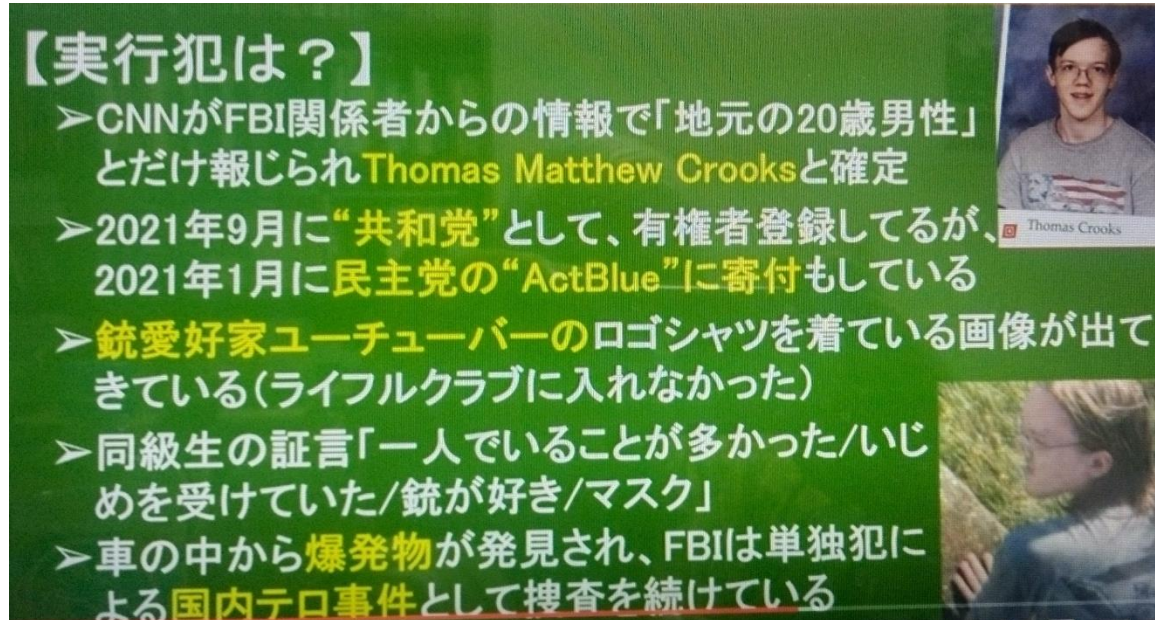
7月19日のウクライナ情報

安齋育郎

① 7.14 生還は奇跡だった/予兆があったシークレットサービスの内部崩壊(2024年7月15日)

※安齋注:カナダのトランプ派の早口おばさまの解説映像ですが、バイデン政権下でのシークレット・サービスの手抜き問題の詳細を述べている点は他の映像にはあまりありません。

<https://youtu.be/qSPEH07UVhc>



【実行犯は？】

- CNNがFBI関係者からの情報で「地元の20歳男性」とだけ報じられ**Thomas Matthew Crooks**と確定
- 2021年9月に“**共和党**”として、有権者登録してるが、2021年1月に**民主党の“ActBlue”**に寄付もしている
- **銃愛好家ユーチューバー**のロゴシャツを着ている画像が出てきている(ライフルクラブに入れなかった)
- 同級生の証言「一人でいることが多かった/いじめを受けていた/銃が好き/マスク」
- 車の中から**爆発物**が発見され、FBIは**単独犯**による**国内テロ事件**として捜査を続けている

https://www.youtube.com/watch?v=qSPEH07UVhc

②米共和党、警備態勢の「不手際」追及へ トランプ氏銃撃防げず(毎日新聞、2024年7月15日)

米東部ペンシルベニア州で起きた共和党のトランプ前大統領に対する銃撃事件を受け、大統領警護隊(シークレットサービス)の警備態勢に不備があったのではないかとの批判が高まっている。共和党が多数派を占める下院のマイク・ジョンソン議長は「不手際」を調査すると表明。バイデン大統領は14日の演説で、独立した検証をするよう関係当局に指示したと明かした。

トランプ氏は、演説台から約120~130メートル離れた会場外にある建物の屋上からライフルで狙われた。集会参加者は米メディアの取材に対し、会場に入る際には金属探知機による検査が行われていたと証言している。一方、会場の外とはいえ、それほど遠くなく、演説台まで遮るものがない建物の屋上をどのように監視し、警備していたのかが焦点になっている。

また、トランプ氏が登壇する直前、建物の屋上にライフルを持った不審者がいることを警察官に指摘したという目撃者の声を英BBCが報じている。この情報をどう扱って対応したのかについても疑問が残されている。

ジョンソン氏は14日のNBCニュースのインタビューで、「議会は完全な調査を行い、警備上の不手際がどこにあったのか、また米国民が知るべきことは何だったのか明らかにする」と語った。共和党はトランプ氏を正式な大統領候補に指名する全国大会を15~18日に中西部ウィスコンシン州ミルウォ

ーキーで開く。終了後に調査と責任追及を本格化させる構えだ。

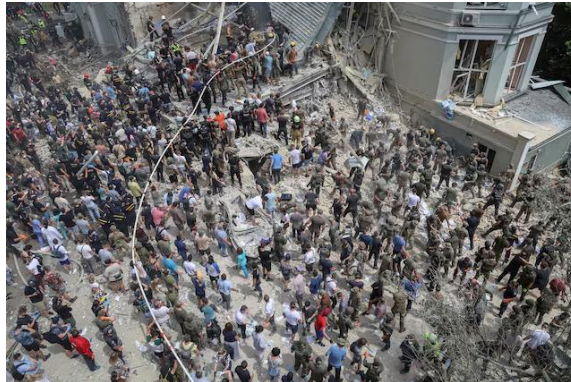
下院国土安全保障委員会のマーク・グリーン委員長は14日、マヨルカス国土安全保障長官あてに書簡を出した。19日までに警備計画などに関する文書を提出し、22日までに説明するよう要請する内容だ。

下院監視・説明責任委員会のジェームズ・コマー委員長は大統領警護隊に説明を求め、22日の公聴会に警護隊のキンバリー・チートル長官が出席して証言するよう求めている。【ワシントン西田進一郎】



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADTM2QAeMjZpRxaweJsFOun9w>

③キーウ小児病院攻撃はロシアのミサイル、国連機関が見解(By ロイター編集、2024年7月9日、一部再報)



[ジュネーブ 9日 ロイター] - ウクライナの首都キーウ(キエフ)の小児病院へのミサイル攻撃について、国連機関は9日、独自の分析としてロシアのミサイルが直撃した可能性が高いと指摘した。

8日、キーウを含むウクライナ各地にミサイル攻撃があり、全土で少なくとも41人が死亡した。もっと見る

ロシア大統領府(クレムリン)のペスコフ報道官は9日、ロシアの攻撃ではなくウクライナのミサイル迎撃システムによるものと主張した。

ウクライナ当局によると、8日のロシアのミサイル攻撃で少なくとも41人の民間人が死亡した。もっと見る。

ウクライナ保安庁は小児病院がロシアの巡航ミサイル「Kh-101カリブル」による攻撃を受けたとし、現場でシリアル番号の付いたミサイルの破片と誘導システムの一部が回収されたと発表した。

ペスコフ氏はロシアが民間人を攻撃しないと言える理由は何かとの質問に対し、「ロシア国防省の声明を信じるよう勧める。同省は民間人を標的とした攻撃があったことを完全に否定し、(病院の被害について)落下した(ウクライナの)ミサイル迎撃システムに言及している」と述べた。

ペスコフ氏は、「われわれは民間人の標的を攻撃することはないと主張し続けている。攻撃は重要なインフラ施設や、ウクライナ政権の軍事力に何らかの形で関係している軍事目標に対して行われる」とした。

※安齋注:安齋育郎のメモ「キエフのオフマトデイト小児病院を破壊したミサイルの正体」をご覧ください。何の苦も無く確認出来ることなのに、国連までこの有様です。もっとも国連はアメリカをはじめとする西欧支配下にありますから、こういう事件が起きると彼らの主張に合わないような言動はとりません。

<https://jp.reuters.com/world/ukraine/ARDOGPLC6RLMLNBZO4G44TZ4QU-2024-07-09/>

④F16 はロシアの管理空域では生き残れない=報道(2024年7月13日)

ウクライナへの引き渡しが計画されている米国製戦闘機 F16 は、軍事大国との紛争にとってはすでに時代遅れであり、ロシアの管理下にある空域で生き残ることはできない。米誌ナショナル・インタレストのコラムニスト、ハリソン・カス氏はこのように指摘している。

同氏によると、F16 の主な問題は、その姿を捉えるシステムにあまりにも探知されやすいことにある。F16 は冷戦期に設計されたため、現代の装備に対抗するようにつくられていないという。

カス氏は、これほど目立つ戦闘機は、技術的に優位に立つ軍隊との戦いで生き残ることはできないと指摘した。

同氏によると、F16 はウクライナの旧ソ連製戦闘機より優れているものの、F16 ができることはウクライナのために少しだけ長く時間を稼ぐことだけだという。

今月10日、デンマーク、オランダ、米国の3か国の首脳は共同声明で、ウクライナ軍にF16戦闘機を引き渡すプロセスが始まったと表明した。ゼレンスキー氏は128機のF16を要求した。

これより先、ロシアのラブロフ外相はスプートニクとのインタビューで、ウクライナへのF16供与をロシアはNATOによる核分野における「意図的なシグナル」とみなすと述べた。



<https://sputniknews.jp/20240713/f16-18810139.html>

⑤ NATO は対話の提案に応じない＝ロシアの CSTO 常駐代表(2024 年 7 月 13 日)

「ロシア側や集団安全保障条約機構(CSTO)側から NATO に対して何度も安全保障システムの構築に関する対話の開始について提案があった。しかし残念ながら、この提案にあちら側は応えなかった」

ロシアのビクトル・ワシリエフ CSTO 常駐代表がスプートニクのインタビューで語った。

また同氏によると、西側諸国は旧ソ連諸国を統合する組織としての CSTO の重要性を理解しているため、NPO を通じて CSTO は無益だとする物語を積極的に推進している。

ワシリエフ氏はまた、CSTO はそこで西側諸国が力を増強し、新たな軍事ブロックを創設しようとしているアジア太平洋地域の状況を懸念していると述べた。同氏によると、この精力的な活動はロシアだけでなく、CSTO の全加盟国にとっても脅威となっている。

CSTO は旧ソ連の構成国 6 か国(アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギス、ロシア、タジキスタン)からなる地域的な国家間機関。外部の武力攻撃から加盟国を守ることが主な目的。



<https://sputniknews.jp/20240713/natocsto-18810448.html>

⑥ スターマー氏、英首相としてバイデン米大統領と初の直接会談「特別な関係」強調 (2024 年 7 月 12 日) ※安齋注:イギリスはスターマーになって何が変わるの?

<https://youtu.be/At3 fkOy-K4>



<https://www.youtube.com/watch?v=At3 fkOy-K4>

⑦バイデン氏は元気で的確だったとスターマー英首相(2024年7月12日)

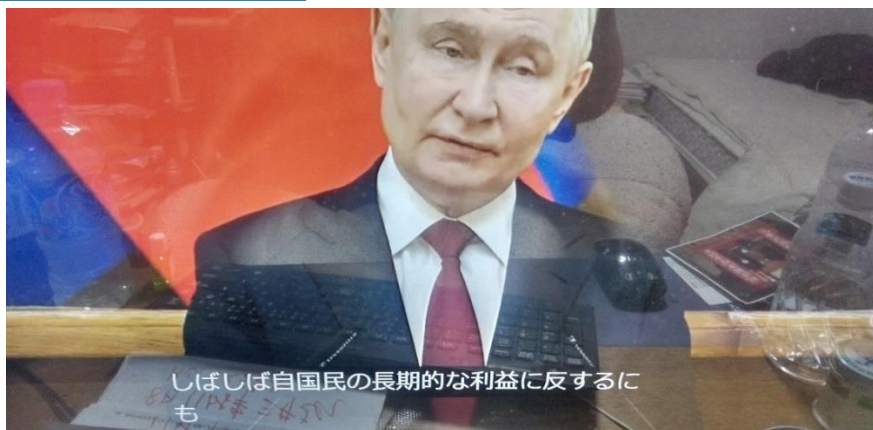
<https://youtu.be/TBmY1Li3u4c>



<https://www.youtube.com/watch?v=TBmY1Li3u4c>

⑧第10回 BRICS 議会フォーラム(2024年7月13日) ※日本語通訳あり

<https://youtu.be/14WLSZmj5Jw>



<https://www.youtube.com/watch?v=14WLSZmj5Jw>

⑨ジョンミアシャイマー教授「オルバンの和平ミッションとバイデン政権がウクライナの死刑執行令状に署名」(2024年7月15日)

<https://youtu.be/kvVLyhVZkcQ> ※日本語つきですが字幕(自動生成)もご利用を。



<https://www.youtube.com/watch?v=kvVLyhVZkcQ>

⑩ロシアによる F16 鹵獲は西側にとって屈辱となるだろう＝仏専門家(2024 年 7 月 15 日)

ウクライナへの F16 戦闘機引き渡しは、たとえ撃墜された後であってもロシアの専門家の手に渡るという恐れがある。仏テレビ局「LCI」の放送内で専門家のギャラガー・フェンウィック氏がこのように述べた。

「F16 の鹵獲は 2 つのことにつながる。まず、赤の広場で展示されることは屈辱的なこととなりうる。もうひとつは、より憂慮すべき、より具体的な結果である。鹵獲された F16 は研究され、装置がどのように機能するのか確認できるという事実につながる」

先週行われた NATO 首脳会議の関連会合で、ブリンケン米務長官は、米国と同盟国によるウクライナ軍への F16 戦闘機引き渡しのプロセスはすでに始まっており、今夏にもウクライナに到着する予定であると発表した。

これより先、ロシアのラブロフ外相はスプートニクとのインタビューで、ウクライナへの F16 供与をロシアは NATO による核分野における「意図的なシグナル」とみなすと述べた。



<https://sputniknews.jp/20240715/f16-18817582.html>